

第53期中間報告書

平成18年4月1日～平成18年9月30日

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 期末 3月31日 中間 9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問合せ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777(通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 株式会社関係のお手続き用紙のご請求は、以下の三菱UFJ信託銀行の電話 およびインターネットでも24時間承っております。 電話(通話料無料)：0120-244-479(本店証券代行部) 0120-684-479(大阪証券代行部) インターネットホームページ：http://www.tr.mufg.jp/daikou/
公告方法	電子公告 ホームページ http://www.soft99.co.jp/ir/koukoku.html 電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載いたします。 ※当社の貸借対照表、損益計算書はEDINET(証券取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム)にて開示しております。
単元株式数	100株
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所市場第二部
インターネットホームページ	http://www.soft99.co.jp



SOFT99は、「クルマ」と「暮らし」の輝きを創造する企業グループを目指します。

代表取締役社長
橋本 眞三

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて日本経済は、原油高や素材価格の高騰に加え金利上昇などの影響を懸念しつつも、企業収益の増大による設備投資の拡大や雇用環境の改善等により、個人消費も拡大傾向となり、景気は回復基調にあります。しかしながら、小売業界及びサービス業界においては、オーバーストアによる過当競争や、単価の下落傾向は依然として続いております。

このような環境の中、当社グループは常に前向きに挑戦し続け、環境の変化にしっかり対応していくため、中期経営企画「Spiral Up'05」のもと、各事業において「顧客基点」に立った製品・サービスの提供に努めてまいりました。

《クルマ》では、製品販売において、昨年にひき続き、お客様の圧倒的支持をいただいたエアータッチが好調に推移したほか、当社のコア技術である機能性薄膜技術を用いた自動車用ボディコーティング剤「ビューティフルG'ZOXリアルガラスコート」が、ボディコーティング施工業者のネットワークの拡大により収益を押し上げました。

《暮らし》では、スーパー銭湯を運営する温浴事業で、平成17年12月オープンした「極楽湯 吹田店」(4号店)が売上に貢献いたしました。既存店では競合の出店による競争激化もあり減益となりました。

《産業》では、PVA素材の特長を活かした一層の用途開発・品質向上を図るなか、電子部品洗浄用及び吸水用スポンジや液晶ガラスの洗浄に用いる長尺ローラーが大きく収益に貢献いたしました。

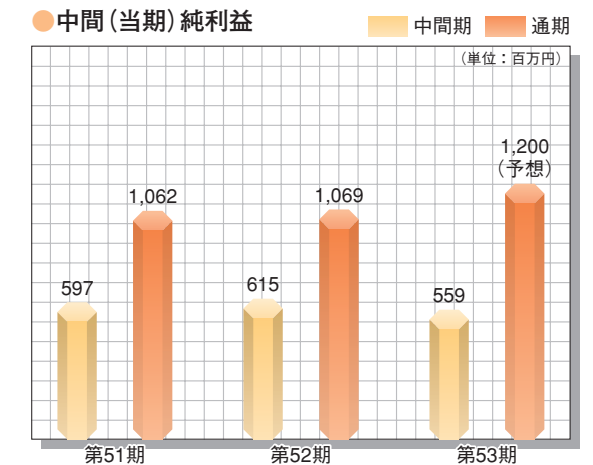
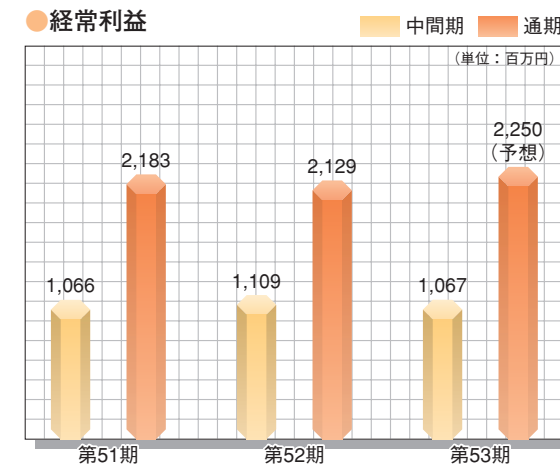
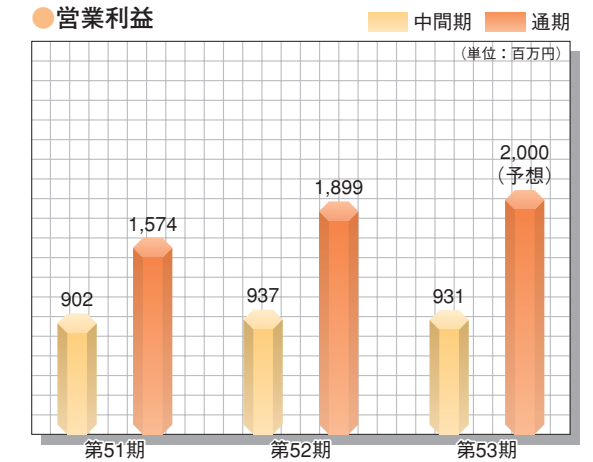
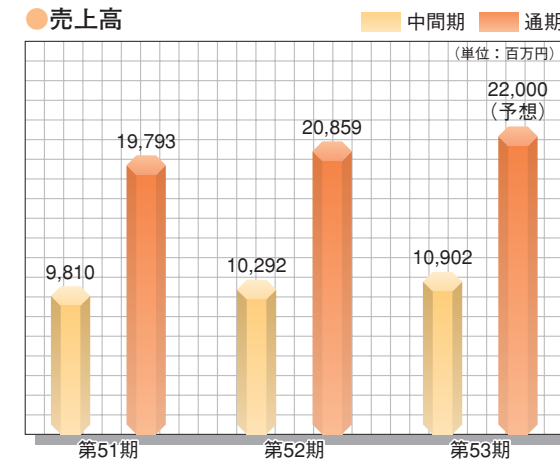
これらの結果、当中間期の連結業績は、売上高10,902百万円、営業利益931百万円、経常利益1,067百万円、中間純利益559百万円で、前年同期と比べ売上高は増収、営業利益は微減となりました。

今後も「クルマと暮らしの輝きを創造する」をモットーに、人々に驚きや感動を与えるオンリーワン製品、高品質な製品・サービスを提供することで社会に貢献する企業グループの実現を目指し、人材、技術開発力、営業力、財務力といった経営資源を有効に活用しながら当社グループの企業価値を高めていく所存です。

なお、当社は連結業績を勘案しながら安定的な配当の継続を基本としており、連結当期純利益の25%を目処とした配当政策を実施しております。この基本方針に則り、株主の皆さまに利益還元を適時に行うため、1株当たり7円50銭の中間配当を実施させていただきました。

株主の皆さまには、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成18年12月



あらゆる産業分野で活躍する アイオンのポラスマテリアルです。

※ポラスマテリアルは、アイオンが提供する各種機能性精密多孔質体の総称です。

IT化の加速に伴い、ハイテク分野をはじめとするさまざまな市場で、ミクロの機能を発揮する各種プロセス材料が重要な役割を果たしています。アイオンではこのような産業トレンドに先がけ、超微細多孔質体の技術インフラを確立。その中核となるPVAスポンジは、究極の吸水・保水性能及び、ソフトな風合いによる卓越した洗浄性能を発揮するマテリアル＝プロセス材料として、さまざまなニーズに対応しています。



アイオン AION：ギリシャ神話上の「時間=時代」を司る神

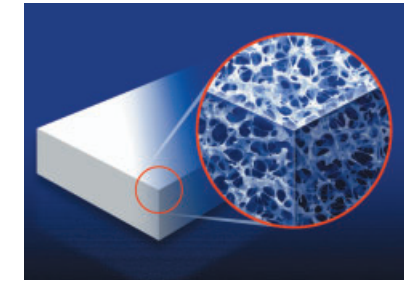
○PVAスポンジとは

PVAスポンジは、一般のウレタンスポンジなどとは異なり、きわめて親水性が高く、また容積の90%もの微細気孔によって毛細管現象が生じるため、抜群の吸水性、保水性を発揮します。水に接すると、構造体がハイスピードで吸水を開始し、みるみるうちに水分を内部に取り込んで、しっかりと保持します。また、ウェット状態では柔軟性・弾力性があり、特に洗浄材や拭き取り材として使用する場合、対象物の表面を傷めることがありません。

連続気孔

親水性

柔軟性



PVAスポンジの特長

気孔拡大図

○PVAスポンジをはじめとするポラスマテリアルの進化と深化を追求し続けています。

アイオンは、「洗浄」「吸水・搬送」「研磨」という生活を支えるあらゆる分野でさまざまな商品を提供しています。特に近年では、ハイテク製品の高性能化に伴い、製造工程における精度・品質に対する要求に応え続け活躍の場を広げています。また、新たな事業領域として環境・健康をキーワードにした取り組みもスタートさせ、さらなるポラスマテリアルの進化と深化を目指します。

洗浄



自動車用拭き取りスポンジ



電子デバイスやハードディスク、液晶ガラス基板の洗浄用ローラー及びブラシローラー

吸水・搬送



自動車用拭き取りクロス



液晶ガラス基板やプリント基板、リードフレームの吸水搬送ローラー

研磨



ハードディスク用研磨砥石

95ナノ世代から65ナノ世代、そして45ナノ世代へ。さらにクリーンで高性能な洗浄に対応するため総合品質の向上に取り組んでいます。

液晶テレビやノートパソコンの普及により、いまや5兆円ともいわれる液晶産業における、第8、第9世代への大型化に対応する技術開発に取り組んでいます。

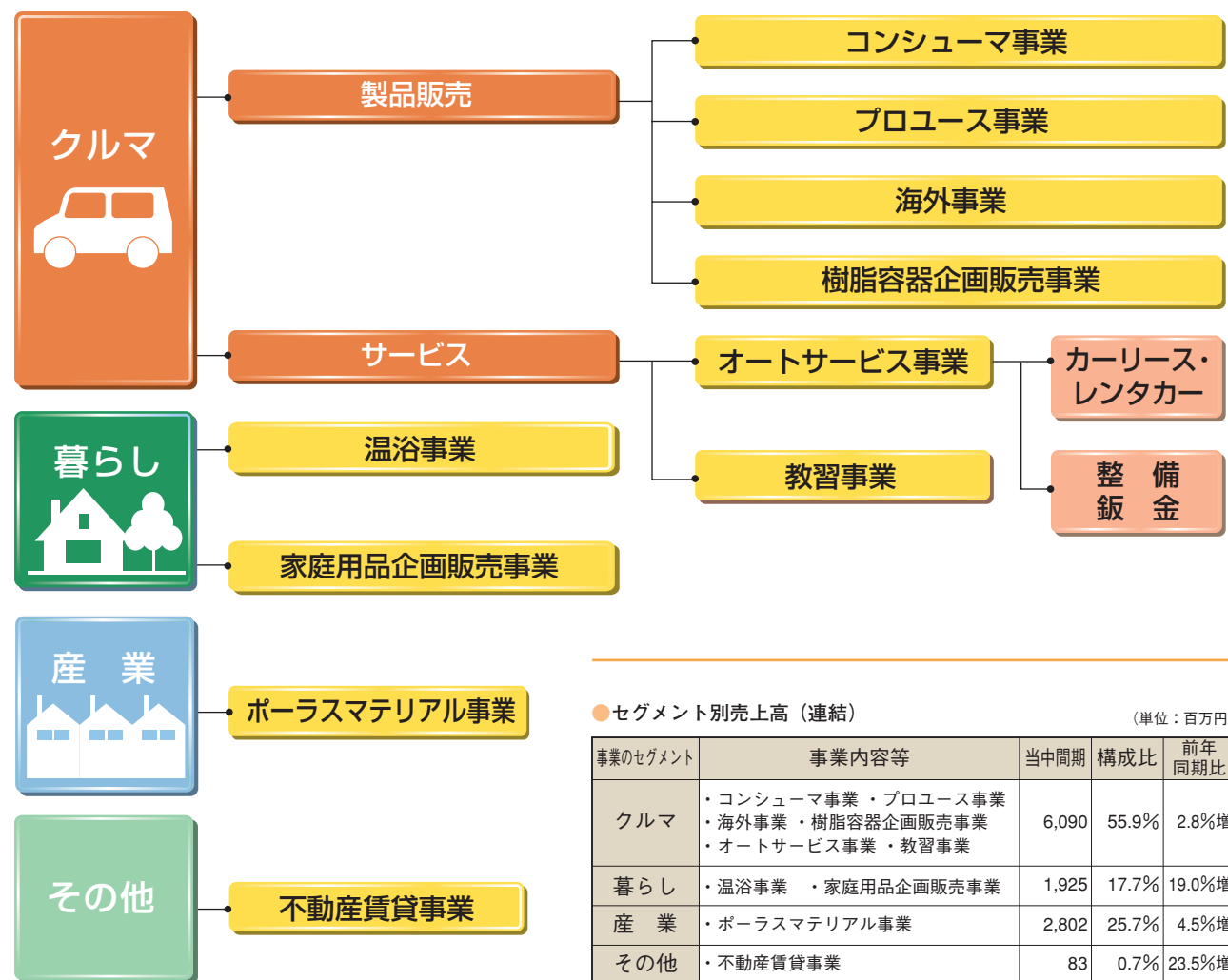
メガからギガ、そしてテラへと高容量化が進むハードディスク。さらに高まる精度研磨へのニーズに対応する製品開発に取り組んでいます。

環境・健康



生物脱臭、廃水処理用の微生物固定化担体

グループ各社の経営資源を活用し、 シナジー効果で企業価値の最大化を目指します。



●セグメント別売上高（連結）
（単位：百万円）

事業のセグメント	事業内容等	当中間期	構成比	前年同期比
クルマ	・コンシューマ事業・プロユース事業 ・海外事業・樹脂容器企画販売事業 ・オートサービス事業・教習事業	6,090	55.9%	2.8%増
暮らし	・温浴事業・家庭用品企画販売事業	1,925	17.7%	19.0%増
産業	・ポーラスマテリアル事業	2,802	25.7%	4.5%増
その他	・不動産賃貸事業	83	0.7%	23.5%増

クルマ

自動車用品業界におきましては、軽自動車の販売は好調なものの普通自動車の新車販売が低迷するなど、自動車のコモディティ化が進んだ事などにより、アフターマーケットにおける競争は依然激しく、価格競争による販売単価の低下の影響を受けました。

製品販売におきましては、新製品のボディケア用品「カラーエポリューション」や消費者の皆さまから高い評価を頂いているカンタン補修用品「エアータッチ」、及びガラス撥水剤「ガラコ」等の販売が好調に推移いたしました。

また、「ビューティフルG' ZOXリアルガラスコート」もボディコーティング施工業者のネットワーク拡大、自動車販売ルートへの供給の増加等により売上が確実に増加してきております。

自動車教習事業におきましては、平成19年に予定される大型免許の法改正に伴うコース改修工事にいち早く取り組むなど、四輪総合校としての強みと、地域の交通安全センターを目指した地域密着型事業運営を行いました。

法人向け自動車リースと整備・钣金塗装を組み合わせたオートサービス事業におきましては、首都圏における営業基盤の拡大と、近畿圏における工場稼働体制の改善やサービスの向上により、整備・钣金の受注台数が増加いたしました。

これらの結果、当中間連結会計期間におけるクルマ事業部門の売上高は6,090百万円（前年同期比2.8%増）、営業利益は271百万円（同13.3%増）となりました。

暮らし

スーパー銭湯を運営する温浴事業におきましては、平成17年12月にオープンした吹田店、会員制を導入した尼崎店が売上に貢献し増収となりましたが、競合店の相次ぐ出店による競争激化により、価格優位性のあった東大阪店・枚方店において入場者数の減少等苦戦を強いられ、集客のための販売促進費の増加等により減益となりました。

これらの結果、当中間連結会計期間における暮らし事業部門の売上高は1,925百万円（前年同期比19.0%増）、営業利益は67百万円（同61.9%減）となりました。

産業

産業資材部門におきましては、デジタル家電業界の積極的な設備投資により、主力の電子部品洗浄用及び吸水用スポンジや液晶ガラスの洗浄に用いる長尺ローラーが順調に推移しました。生活関連資材においては、PVA素材の特長を活かした用途開発を進めているなか、新製品「サモコンクール」が好調に推移しプラスセーヌの販売数の減少をカバーすることができました。

これらの結果、当中間連結会計期間における産業事業部門の売上高は2,802百万円（前年同期比4.5%増）、営業利益は528百万円（同13.9%増）となりました。

その他

不動産賃貸事業におきましては、東京ビルディングのテナント収入の通年寄与により、当中間連結会計期間におけるその他事業部門の売上高は83百万円（前年同期比23.5%増）、営業利益は63百万円（同13.1%増）となりました。

● 中間連結貸借対照表

科 目	当中間期 (18.9.30現在)	前中間期 (17.9.30現在)	前 期 (18.3.31現在)
資産の部			
流動資産	12,373	12,658	12,552
現金及び預金	5,797	5,533	5,819
受取手形及び売掛金	3,319	3,309	3,242
有価証券	598	1,205	899
たな卸資産	1,944	1,917	1,833
その他	713	693	757
固定資産	32,305	31,144	32,060
有形固定資産	24,074	23,568	24,141
建物及び構築物	6,152	5,692	6,275
土地	15,413	15,388	15,413
その他	2,509	2,487	2,452
無形固定資産	375	386	405
のれん	191	292	243
その他	184	93	162
投資その他の資産	7,855	7,189	7,513
投資有価証券	6,185	5,624	5,819
その他	1,669	1,564	1,694
繰延資産	—	30	—
資産合計	44,678	43,833	44,613

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
前中間期及び前期につきましては、会社法施行後の科目にて表示しております。

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (18.9.30現在)	前中間期 (17.9.30現在)	前 期 (18.3.31現在)
負債の部			
流動負債	2,774	2,800	3,151
支払手形及び買掛金	1,123	1,111	1,048
短期借入金	40	40	40
未払金及び未払費用	931	899	1,067
その他	678	749	996
固定負債	2,203	2,263	2,211
長期借入金	—	5	2
退職給付引当金	902	880	886
長期未払金	79	92	85
その他	1,222	1,283	1,237
負債合計	4,977	5,064	5,363
純資産の部			
株主資本	38,975	38,293	38,610
資本金	2,310	2,310	2,310
資本剰余金	3,116	3,116	3,116
利益剰余金	33,726	33,044	33,361
自己株式	△ 177	△ 177	△ 177
評価・換算差額等	555	345	484
その他有価証券評価差額金	629	448	560
土地再評価差額金	△ 122	△ 122	△ 122
為替換算調整勘定	47	19	46
少数株主持分	171	130	154
純資産合計	39,701	38,769	39,250
負債及び純資産合計	44,678	43,833	44,613

● 中間連結損益計算書

科 目	当中間期 (18.4.1から 18.9.30まで)	前中間期 (17.4.1から 17.9.30まで)	前 期 (17.4.1から 18.3.31まで)
売上高	10,902	10,292	20,859
売上原価	6,947	6,466	13,264
売上総利益	3,955	3,825	7,595
販売費及び一般管理費	3,024	2,888	5,695
営業利益	931	937	1,899
営業外収益	139	177	311
営業外費用	4	5	81
経常利益	1,067	1,109	2,129
特別利益	25	46	89
特別損失	97	49	247
税金等調整前中間(当期)純利益	995	1,106	1,970
法人税、住民税及び事業税	415	481	906
法人税等調整額	△ 1	△ 8	△ 47
少数株主利益(控除)	21	18	42
中間(当期)純利益	559	615	1,069

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

● 中間連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	当中間期 (18.4.1から 18.9.30まで)	前中間期 (17.4.1から 17.9.30まで)	前 期 (17.4.1から 18.3.31まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	729	1,228	2,728
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 469	129	△ 955
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 181	△ 1,544	△ 1,684
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	10	18
現金及び現金同等物の増加額(又は減少額)	79	△ 175	106
現金及び現金同等物の期首残高	5,701	5,595	5,595
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	5,780	5,419	5,701

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

「連結株主資本等変動計算書」について

会社法の施行に伴い、「連結株主資本等変動計算書」が新設されました。
これは、P.7の「連結貸借対照表」で新設された「純資産の部」の中で、主に株主の皆さまに帰属する株主資本等について、その会計期間における変動事由と変動額をご報告するために作成する計算書類です。

● 中間連結株主資本等変動計算書 当中間期(18.4.1から18.9.30まで)

(単位：百万円)

科 目	株主資本				株主資本合計	評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成18年3月31日残高	2,310	3,116	33,361	△ 177	38,610	560	△ 122	46	484	154	39,250
中間連結会計期間中の変動額											
剰余金の配当			△ 164		△ 164						△ 164
役員賞与			△ 30		△ 30						△ 30
中間純利益			559		559						559
株主資本以外の変動額合計						69		1	70	16	86
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	364	—	364	69	—	1	70	16	451
平成18年9月30日残高	2,310	3,116	33,726	△ 177	38,975	629	△ 122	47	555	171	39,701

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

単体財務情報

● 中間貸借対照表 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	当中間期 (18.9.30現在)	前中間期 (17.9.30現在)	前 期 (18.3.31現在)
資産の部			
流動資産	8,127	8,304	8,236
現金及び預金	4,643	4,157	4,553
受取手形及び売掛金	1,470	1,466	1,455
有価証券	598	1,205	899
たな卸資産	1,268	1,282	1,155
その他	145	192	172
固定資産	31,387	30,678	31,203
有形固定資産	15,081	15,010	14,920
建物	3,895	4,082	3,980
土地	10,181	10,181	10,181
その他	1,004	747	758
無形固定資産	56	50	56
投資その他の資産	16,249	15,617	16,227
繰延資産	—	30	—
資産合計	39,514	39,013	39,440
負債の部			
流動負債	939	978	1,168
買掛金	383	319	331
未払金	170	167	196
その他	386	490	640
固定負債	783	733	753
負債合計	1,723	1,711	1,921
純資産の部			
株主資本	37,283	36,975	37,080
資本金	2,310	2,310	2,310
資本剰余金	3,116	3,116	3,116
利益剰余金	32,034	31,726	31,831
自己株式	△ 177	△ 177	△ 177
評価・換算差額等	507	326	438
その他有価証券評価差額金	629	448	560
土地再評価差額金	△ 122	△ 122	△ 122
純資産合計	37,791	37,302	37,518
負債及び純資産合計	39,514	39,013	39,440

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
前中間期及び前期におきましては、会社法施行後の科目にて表示しております。

● 中間株主資本等変動計算書 当中間期 (18.4.1から18.9.30まで)

(単位: 百万円)

科 目	株主資本					株主資本 合計	評価・換算差額等			純資産 合計
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金 利益準備金	利益剰余金 別途積立金	利益剰余金 繰越利益剰余金		その他有 価証券評 価差額金	土地再評 価差額金	評価・換 算差額等 合計	
平成18年3月31日残高	2,310	3,116	148	30,300	1,383	31,831	△ 177	—	438	37,518
中間会計期間中の変動額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	—	—	△ 164	△ 164	—	—	—	△ 164
役員賞与	—	—	—	—	△ 19	△ 19	—	—	—	△ 19
中間純利益	—	—	—	—	386	386	—	—	—	386
別途積立金の積立	—	—	—	100	△ 100	—	—	—	—	—
株主資本以外の変動額合計	—	—	—	100	103	203	—	—	69	69
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	100	103	203	—	—	69	272
平成18年9月30日残高	2,310	3,116	148	30,400	1,486	32,034	△ 177	—	507	37,791

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 中間損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	当中間期 (18.4.1から 18.9.30まで)	前中間期 (17.4.1から 17.9.30まで)	前 期 (17.4.1から 18.3.31まで)
売上高	4,884	4,953	9,793
売上原価	2,497	2,662	5,266
売上総利益	2,386	2,290	4,526
販売費及び一般管理費	1,930	1,966	3,784
営業利益	455	324	742
営業外収益	230	262	366
営業外費用	1	0	72
経常利益	684	586	1,036
特別利益	2	44	89
特別損失	94	6	107
税引前中間(当期)純利益	592	623	1,018
法人税、住民税及び事業税	180	211	418
法人税等調整額	25	△ 1	△ 55
中間(当期)純利益	386	413	655

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況/会社の概要

株式の状況 (平成18年9月30日現在)

株式の総数

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	22,274,688株

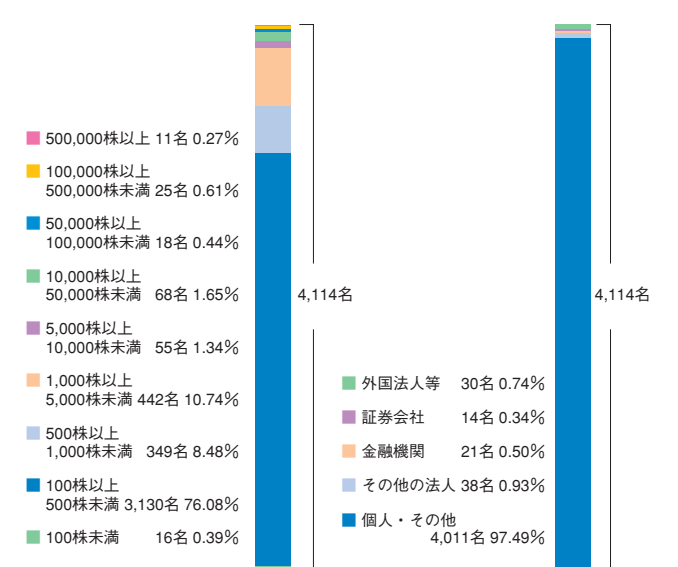
株主数

当中間期末株主数	4,114名
----------	--------

大株主

	持株数	議決権比率
サントレード株式会社	3,354,528 (株)	15.3 (%)
田中 秀明	1,496,976	6.8
鈴木 幹子	1,492,656	6.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	1,250,200	5.7
株式会社三菱東京UFJ銀行	899,200	4.1
エフイーエルオーピーシーブイエムアカウント	761,200	3.4
株式会社みずほ銀行	709,600	3.2
田中 信	603,720	2.7
佐藤 佐世子	594,192	2.7
田中 明三	549,640	2.5

所有株式数別株主分布



会社の概要 (平成18年9月30日現在)

商 号	株式会社ソフト99コーポレーション
設 立	昭和29年10月28日
本 社	大阪市中央区谷町二丁目6番5号
資 本 金	2,310,056,000円
従 業 員 数	179名
事 業 内 容	自動車用化学製品の製造及び販売

役員 (平成18年9月30日現在)

代表取締役社長	橋 本 眞 三
取 締 役 会 長	田 中 明 三
常 務 取 締 役	土 堤 内 清 嗣
常 務 取 締 役	橋 本 欽 司
取 締 役	平 野 泰 彦
取 締 役	辻 平 春 幸
取 締 役	岸 田 靖 雄
取 締 役	西 川 保
取 締 役	渡 辺 泰
取 締 役	田 中 信
常 勤 監 査 役	赤 星 学
監 査 役	小 松 陽 一 郎
監 査 役	柏 岡 勲
監 査 役	松 本 二 三 男